【授業科目】在宅看護学概論

Introduction to Home care Nursing

担 当 教 員		開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィス	教職員への授業公開
多次 淳一郎		2 年次 前 期	必修	1	1 5	講義	あり	巻末 掲載	可
授業概要 (内容と進 め方) 及び 課題に対す るフィードバック 方法	授業概要 / 本科目は、人々の「暮らし」を国際生活機能分類 (ICF) モデルの構成概念である「健康」「環境」との関連から捉える意義とみかたを学ぶ。また、地域で暮らす人々を支える看護や医療保健福祉のしくみについて学ぶ。 講義はレジュメを中心に教科書、視聴覚教材を用いて行い、一部の単元でゲストスピーカーによる講義を行う。 課題に対するフィードバック方法 / 各回の授業カードで感想・質問を収集し、次回以降の講義時にコメント・回答し、全体で共有する。提出課題については、総評コメントを資料として受講者に配布する								
実務経験に 関する授業 内容	看護師、保健師の実務経験をもつ教員が、地域・在宅分野の看護師として必要な在宅看護の基盤となる知識について、 在宅療養や介護者の暮らしの実際に関する資料・教材を交えながら指導していく科目である。								
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー③「専門的知識・技術に基づき、地域に暮らすあらゆる健康レベルの人々にそれぞれ必要とされる看護を実践することができる」の達成に寄与している。								
到達目標 (履修者が 到達すべき 目標)	① 暮らしをみる意義を説明できる。② 暮らしをみる基盤となる理論・モデルを説明できる。③ 暮らしを支える制度、社会資源の概要を説明できる。④ 暮らしを支える看護活動の場と役割・機能を説明できる。								
時間外学習 に必要な 内容・時間	課題 ゲストスピーカーの受傷からの経験と現在の暮らしを ICF モデルを枠組みとして考察し、レポートにまとめる。 (第 4 回指示、第 8 回提出) 事前・事後学習 事前学習:教科書の該当・関連箇所をおよび随時提示する参考図書等を読み、まとめておく(各 30 分) 事後学習:同日の学習内容をふりかえり、整理しておく(各 30 分)								
授業計画	 第1回 オリエンテーショ 第2回 暮らしをみる① 第3回 暮らしをみる② 第4回 暮らしをみる③ 第5回 暮らしをみる④ 第6回 暮らしを支える⑥ 第7回 暮らしを支える⑥ 第8回 暮らしを支える⑥ 	「健康と暮 「環境と暮 「暮らしの」 「自立して ① 「暮らし	よらし」(小 よらし」(小 り自立と自律 で 事らす、と を支える看 マルな支援	演習含む) 演習含む) 」 【課題! いうこと」 護」(小演: と多職種連!	指示】 (ゲスト) 習含む) 携」(小漢		課題提出】		全て 多次
評価方法 評価基準	課題 30%、授業カードへの回答内容 10%、試験 60%で総合的に評価する。 ただし、授業態度(私語、長時間の離席答)から減点する場合がある。								
教科書	・河原加代子,他著『系統看護学講座 地域・在宅看護論 の基盤 地域・在宅看護論1』(第6版1刷)医学書院 ・河原加代子,他著『系統看護学講座 地域・在宅看護論 の実践 地域・在宅看護論 2』(第6版1刷)医学書院 講義の中で適宜紹介								
学生への 助言等	本科目を通じて、"暮らし"に目を向け、その視点で看護の対象者を捉えることの意義を理解するための基礎的視点を習得されることを期待します。 本科目での学びは在宅看護学関連の科目のみならず、臨床看護においても基盤となる考え方・知識になりますので、常に他科目や実習(実践)とのつながりを意識し、積極的に学ばれることを期待します。								